

2013年8月10日・11日 主催：ウズベキスタン日本語教師会
於：インターナショナル・ビジネスセンター会議室

報告者：池田玲子

ウズベキスタン日本語教育セミナー2013

プログラム

1. 講演1 池田玲子「日本語作文教育のピア・レスポンス ―授業デザインの実際―」
2. 講演2 森下雅子先生とボランティア教師（倉員さん、乾さん、高瀬さん、松島さん）
「楽しく作文を書くために ―学びを促す学習環境デザイナー―」
3. ワークショップ 池田玲子「日本語ピア・ラーニングの授業デザイン」
4. 現地の日本語教師からの実践報告会
5. 協働学習自主セミナー 池田玲子「ピア・ラーニングの授業デザインの実際」

8月10日と11日の2日間にわたり、ウズベキスタンの首都タシケントで実施された日本語教育セミナーのテーマは、「日本語作文の指導方法」でした。ウズベキスタンの教師たちが抱えている作文教育の悩みについては、現地の日本語教師である平井美里先生が、本セミナー開催の事前準備として日本語教師の方々にアンケートをしていただきました。その調査によれば、日本語学習者の文章力や作文授業については、次のような問題があるとのことでした。

- ・文章を正しく書けない。
- ・学生は作文学習が嫌い。
- ・ウェブ翻訳などを使ってしまう。
- ・要約作文の方法で小論文を書いてしまう。
- ・アウトラインの重要性を理解しながらもそこに時間はかけない。

一方で、日本語教師も自分自身が作文を書くのが下手だと感じていたり、日本語授業全体の時間配分の上で作文授業に十分な時間が取れなかったりという悩みを抱えていることが分かりました。

こうした学習者と教師の悩みを課題として、早稲田大学留学生センターで日本語作文授業を担当されている森下雅子先生（ボランティア教師たちも）と私（池田）が、日本で実践している日本語作文指導の方法を紹介しました。参加者の約半数はウズベキスタン人の教師でした。私たち講師からは、各実践についての理論的背景や実施手順、留意点などについて講義しました。その後、森下先生は実際に先生が実践されている教室活動（ボランティア教師と学生との作文カンファレンス活動）を会場で再現し、参加者の方々に観察してもらいました。私は参加者の皆さんに学習者になったつもりで協働学習

の体験をしてもらいました。私たちの実践の紹介が、ウズベキスタンの日本語教師たちが今後作文指導の課題に取り組んでいくときのヒントになればという思いで、本講演とワークショップを行いました。

なお、今回はセミナーの2日目のプログラム（現地教師の実践報告会）の後に、池田が「協働学習自主セミナー」を企画しました。ここでは、作文授業だけでなく、会話、漢字、総合的な日本語授業をピア・ラーニングの学習理論をもとにデザインした事例紹介を行い、その後にピア・ラーニングの授業デザインを参加者に体験していただきました。時間の限られたワークショップや講演だけでは伝えきれない内容と授業デザイン体験を通して協働学習を理解してほしかったからです。



会場：インターナショナル・ビジネスセンター



ピア・ラーニングに期待すること、心配なことを参加者の皆さんから出してもらいました。



森下先生は当日、民俗衣装で講義されました。服と靴はそれぞれ別の国で購入されたそうです。どちらもとってもお似合



ボランティア教師とウズベキスタンの学生さんたちによる作文学習活動

私の担当部分では、ピア・ラーニングの社会的背景と学習研究の背景について講義したあとで、ウズベキスタンの日本語教師が自分のクラスで実践しようとした場合の期待や懸念をポストイットに書いて出してもらいました。その後にピア・ラーニングの学習者体験をしてもらい、翌日のピア・レスポンス（協働作文活動）を体験してもらうための作文の課題を提示しました。

午後は森下先生が4名のボランティアさんたちと一緒に実践している作文学習環境を、実際のウズベキスタンの大学生さんを対象にした授業をセミナー会場で再現されました。セミナー参加者はこの活動を近くでじっくり観察することができました。

2日目は、前日の作文の宿題(?)をもとに、ピア・レスポンスの活動を体験してもらいました。その後に、最初に書きだしていただいた期待や懸念をもとに振り返り線ションを行いました。

午前の後半には、現地の日本語教師の方々から教室実践の報告と日本語研究の研究発表がありました。

ランチはウズベキスタンのレストランで現地の料理を楽しみました。料理名など正確に覚えていないのですが、ロシア風の味のもの、アジアンテイスト、そのどちらでもない独特の珍しい料理もいただきました。ウズベキスタンでは、大きめのレストランであっても、チャーハンのようなライスの炒めごはんの注文があると、それは厨房ではなく、お店の外の歩道に置かれた大きなコンロ（木炭?）で鉄製のフライパンの中で調理するという驚きの光景を見ました。ウェイターさんがそこからお皿にチャーハンをもって店内のお客様のところへ運ぶのです。油たっぷりと聞いたので、私は食べていませんが、今になってあれがどんな味だったのかちょっと心残りです。



私はこのセミナーの1か月前に不覚にも品川駅で足をひねってしまい、脛脛（ふくらはぎ）に肉離れを起こしておりました。ワークショップ中に各テーブルを回ることができない状態でしたが、森下先生と同行されたボランティア教師の方々がグループディスカッションのリードを非常にうまくやってくくださったおかげでプログラムを問題なく進めることができました。

最後に、本セミナーの企画・実施だけでなく、私たち日本から来た講師の滞在中ずっとお世話してくださった平井美里先生に心より感謝いたします。また、ウズベキスタン国際交流基金の近藤正憲先生、ノジマ先生、カミラ先生他、現地の日本語関係者の方々にもたいへんお世話になりました。心よりお礼申し上げます。

2013年9月

